



京都水族館とオオサンショウウオ

ふちんかん

京都水族館は梅小路公園内に2012年オープンの新しい水族館ある。

海水生物の展示がある水族館として日本初となる完全人工海水利用の水族館とのこと。

入園料は大人2050円である。近隣の大型水族館である、鳥羽水族館2500円、城崎マリワールド2470円、海遊館2300円と比べると安い。他の多くの水族館が1000円台であることを考えると高い……。ただ1年間何回でも入場できる年間パスポートが2回分の料金で購入できるのは良い点かと思う。

展示ゾーンは『京の川ゾーン』『かいじゅうゾーン』『ペンギンゾーン』など9つに分かれている。今回はあまり時間がなかったため、以下の5つのゾーンを中心に見て回った。

1. 京の川ゾーン

京都の川の流れを再現した淡水水槽のゾーンである。入ってすぐに国内最大規模のオオサンショウウオの展示コーナーがある。オオサンショウウオについてはのちほど。

鴨川の清流を擬した15mもの横長水槽は、オイカワやカワムツなど清流を好む魚類を見ることができる。



2. かいじゅうゾーン

アザラシとオットセイの展示ゾーン。

詳しくはページをめくってYさんの原稿を。

3. 大水槽

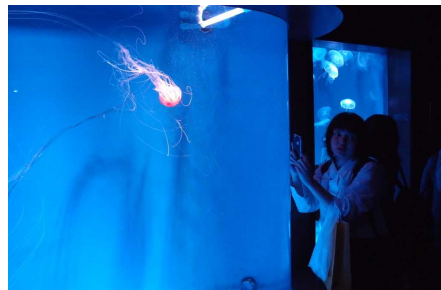
厚み240mmのアクリルガラスで作った水量500tの大水槽、日本海を表現している。マダラトビエイやクエなどが優雅に泳ぐ姿が見られる。あるとわかっていても大水槽には圧倒され、息をのむ。



4. 海洋ゾーン

さんごの海や日本海の深海などを表現している。

最近多くの水族館で展示されているが、「クラゲ」の展示もライティングに工夫があり、「癒やし」を求める人には良い展示だと思う。





クラゲのほか、オウムガイやカブトガニの展示もあり、カブトガニは珍しく平面ではなく立体展示であった。そのため甲羅の内側で必死に脚を掻いて移動する様が観察できた。

5. イルカスタジアム

観客一体型を目論む新しいタイプのイルカショー。
詳しくはページをめくって Y さんの原稿を。



オオサンショウウオについて

オオサンショウウオとは名に「ウオ」が付くが魚類ではなく、両生類である。イモリやウーパールーパーと同じ仲間ということだ。夜行性なので展示中は水槽の中で一番暗い左隅に重なるように寄り集まっている。

とても旨そうには見えないが、山深くの土地のタンパク源として重宝された食材であり、中国では現在でも食されている

とのこと。京都でも中国から輸入されたチュウゴクオオサンショウウオが料亭などで供されていたのだが、文化庁が購入禁止のよびかけをした結果、不良在庫となった個体が野に放たれてしまった、といういきさつがある。そして天然記念物である在来種のオオサンショウウオと外来種であるチュウゴクオオサンショウウオとの交雑が進み、現在、鴨川のオオサンショウウオは、ほとんどが交雑種となっている。在来種とさらに交雑することを避けるために捕獲された交雑種がかなりいて、それを持ってあましているというのが現状のようである。京都水族館に展示されている個体もそうである。私個人としては、そこまで在来種にこだわる必要も感じないのだが、元々は同じ種であるから（だからこそ交雑もできる）。ヒトのせいで壊しつつある生態系をヒトの小知恵・小手先で戻そうとするのも、なにかおこがましく滑稽な気がしてならないのである。

堅い話になったが、そんなオオサンショウウオもミュージアムショップではイチオシ商品である。90cmもあるLLサイズのぬいぐるみが3150円。生地はところどころに



コーヒーマシンのシミのように薄汚れたていの模様があり、かなりリアルになっている。今回、相棒殿へのプレゼントにこいつを購入した。わたしはこの手のミュージアムショップでぬいぐるみを買うのは初めてである。

会計後の「オオサンショウウオ！お買い上げ！ありがとうございます！」「ありがとうございます！」の店員さんの合唱が少々恥ずかしかった。

【自分で買っておきながら初めのうちは家で遭遇するとドキっとした。】